

明日 への 話題

禍を転じて 福となす



証券取引等監視委員会
委員長

は せ が わ み つ ひ ろ
長谷川 充弘

資本市場を取り巻く環境の変化が著しく、これまでにないスピードで変貌していくと予想されてきた。ビッグデータ、AI、IoTなどのデジタル化の進化によって縦割りの産業構造が横展開していき、ロボット、ブロックチェーンなども加わって第4次産業革命を迎えるとも言われている。金融・証券のグローバル化、ボーダレス化の進展が目覚ましく、その恩恵がある一方、人と物の移動の国境や法制度と税制の違いによる問題に伴う様々なコンフリクトも懸念され、その克服も課題とされてきた。

その最中、新型コロナウイルス感染症の猛威が世界を襲い、リーマン・ショックを凌いで世界大恐慌以来とまで言われる経済的な危機をもたらしている。人類の存亡にまで影響し、「命が大事かお金が大事か」すらも問われている。デジタル化の成果の中には見直しを余儀なくされているものもあるし、自国中心主義の弊害、国際的なリーダーシップの不在による世界の分断の懸念も深刻化しつつある。資本市場がこれまでとは次元の違う厳しい危機に直面していると言っても過言ではなからう。

しかし、「禍を転じて福となす」である。ある識者が「人生は想定外の連続。危機を無駄にするな。クライシスをチャンスにする」ことの意義を述べられた。様々な慣行が見直されて淘汰され、ビジネスモデル、投資思想、経済・社会システム、働き方と業務の在り方、ライフスタイルが良い方向で大きく変わっていくパラダイム・シフトの好機となり得る。企業も個人も社会と共にある存在として公益も担い、人類の存続に重要なESG投資も加速する。今、「命の次に大切なお金」が人の生存に不可欠の存在であると実感されている。この危機を力を合わせて乗り越えて未来への道を歩むには、資金の健全な循環と確保が必要不可欠であり、資本市場が担う役割が一層重視されていることは言うまでもない。

人間の生存、健康には新鮮な血を運ぶ動脈が重要であると同時に、害悪を感知して排出する静脈も必要であり、相互補完関係にある。金融商品取引市場の法令違反を監視する証券取引等監視委員会は静脈の役割を担う。今、変えるべきものを大胆に又は慎重に変えていくべき時である一方、変えてはならない不動の軸足も強くなくてはならない。信頼され魅力ある資本市場の核心部分の「公正性・透明性」の確保・向上のため、今の不安定な情勢下にあっても不正行為に係る監視を徹底し、違反行為には厳正に対処することで、厳しい経営環境下で懸命の努力を重ねておられる方々のご労苦に報いていきたい。